（別紙6）

［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成１９年４月２７日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301950
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム郡山日和田
所在地	福島県郡山市日和田町字財ノ木原１５－４ （電　話）０２４-９６８-２５５０

評価機関名	社会福祉法人　福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮１１１番地		
訪問調査日	**平成19年3月16日**	評価確定日	**平成19年4月27日**

【情報提供票より】（１９年２月１８日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１６　年　５　月　１　日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27　人
職員数	10 人	常勤　9人，非常勤　1人，常勤換算　8.1　人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋　　造り
	階建ての　　～　　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	75,250　円		その他の経費(月額)	円
敷　金	有（　　円）	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（100,000　円） 無		有りの場合 償却の有無	(有) ／ 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　825　円			

（４）利用者の概要（　２月１８日現在　）

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護１	7　名	要介護２	7　名		
要介護３	7　名	要介護４	5　名		
要介護５	1　名	要支援２	0　名		
年齢	平均　83.9 歳	最低	70 歳	最高	100 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ひわだ太田診療所・医療法人本間医院・ニコニコ歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者や管理者、ホーム長はもとより、各ユニットリーダーやホーム内で働く職員一人ひとりが、グループホームの意義や役割をしっかりと認識しており、ホームの質の向上ということを常に念頭においた上で前向きにケアサービスに取り組む姿勢がとても印象的であった。その証として、今回の自己評価で改善すべき点がいくつか挙げられていたが、この外部評価が実施されるまでの短期間において、すでに改善またはその方向で取り組み始めていることも多く見られた。また、職員の顔が皆生き生きとしており、たいへんな仕事にも拘わらず、楽しそうに取り組んでいる。そして当然のごとく、入居者一人ひとりも元気に明るく生活している姿がとても良かった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	運営者や管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解しており、ホーム長やユニットリーダーを中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	現在隔月に実施しており、地域の方々の積極的な参加や話し合いができるよう努めている。また、外部評価を含むホームの状況報告はもとより、様々な課題に対する取り組みも行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	事業所として苦情相談窓口を明確に設けており、家族等にも繰り返し伝えている。また、定期的にアンケートを家族等に送付し、少しでも意見を言いやすい環境（機会）作りに努めているとともに、その結果を運営に反映させる体制もできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	入居者と職員の毎日の散歩時に地域の方々と気軽に挨拶を交わすなど、少しでも付き合いが深まるよう努めている。また、地域の子どもたちや各種ボランティアの訪問を受け入れたり、ホーム主催の各種行事に地域の方々を招待するなど積極的な取り組みが見られた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営母体全体で統一された理念の他に、「愛の家・郡山日和田」独自での理念も掲げており、入居者にとって心が癒され愛される場所となるよう、毎月スローガンを変えるなど、事業所全体での前向きな取り組みが見られた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	１日に２回のミーティング時に唱和するなどして理念の共有に努めているとともに、それを日常の実践に活かすべき取り組みも積極的に行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と職員の毎日の散歩時に地域の方々と気軽に挨拶を交わすなど、少しでも付き合いが深まるよう努めている。また、地域の子どもたちや各種ボランティアの訪問を受け入れたり、ホーム主催の各種行事に地域の方々を招待するなど積極的な取り組みが見られた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解しており、ホーム長やユニットリーダーを中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。また、評価結果に基づいた具体的な改善についても積極的な取り組みが見られた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在隔月に実施しており、地域の方々の積極的な参加や話し合いができるよう努めている。また、外部評価を含むホームの状況報告はもとより、様々な課題に対する取り組みも行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業者は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、金銭管理等については、定期的なお便りや面会時、電話等により随時報告している。また、職員の異動に関しての報告が不十分な時期が見られたが、現在は改善されてきている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所として苦情相談窓口を明確に設けており、家族等にも繰り返し伝えている。また、定期的にアンケートを家族等に送付し、少しでも意見を言いやすい環境（機会）作りに努めているとともに、その結果を運営に反映させる体制もできている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が多く、入居者に影響を及ぼす時期が見られたが、現在は、異動を極力少なくするような取り組みを行っているとともに、万が一異動が生じたときは、約１ヵ月間、新旧職員による引継ぎを行い、少しでも入居者のダメージを防ぐよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始めとして、各職員の段階に応じた研修体制はできており、内部研修のみならず、外部研修にも積極的に参加している。また、ユニットリーダーを中心とし、仕事を行いながらの実践教育も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「福島県グループホーム連絡協議会」に参加し、他のホームと積極的に交流を図りながら、ホームの質の向上に取り組んでいる。また、郡山市を中心としたネットワーク（協議会支部）の立ち上げを考えており、現在、その取り組みを進めているところである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な日常の場面において、入居者と職員が一緒に行うようにしている。その中で、例えば職員の知らない歌を学んだり、入居者同士で支え合う場面が生まれたり、時には職員が支えてもらったりと、皆で意識した前向きな取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前から家族等より情報を得たり、日常の様々な生活場面でのコミュニケーションや行動などから、職員の気づきやカンファレンス等を通じ、入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 　本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者本人の日常の状況把握や家族の面会時に話し合いをするなどして、本人の意向や家族等の意見を反映した介護計画を全ての職員が関わりながら作成している。今後ホームとしてはさらに一歩進み、本人と家族を含めたカンファレンスを実施していきたいと考えている。	○	本人と家族を含めたカンファレンスの実施について、ぜひ実現できるよう、その取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 　介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行われている。また、現在は入居者の状況変化等による見直しを行う必要のある事例が発生していないが、もし今後そういう場面が生じた場合は、すぐに対応する体制は整っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前にかかりつけ医がおり、希望された場合はそのまま継続して受診できるようにしている。また、かかりつけ医が特にいない方に対しては、ホームの協力医療機関を紹介し対応している。各医療機関との連携もとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては「重度化した場合における医療体制指針」を作成しており、職員間及び医師等においてはこの内容を共有しているが、家族等に対しては説明はしているものの、その理解はまだ不十分な状況にある。	○	家族等との方針の共有について、繰り返し話し合いを継続していってほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事や外出時（散歩）、排泄支援の場面など、各職員とも、入居者一人ひとりの状況に応じた適切な声かけ、働きかけが見られ、気になるようなことはなかった。また、個人情報に係る各記録や書類等の取扱いについても十分に配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのニーズ（希望等）はしっかりと把握しており、日常のあらゆる場面において個々のペースに応じた支援が行われていた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	１日のメニューは基本的にはホーム（法人）側で提供したものであるが、外食等も含め、入居者の希望も取り入れることはできる。また食事に係る食材の購入や準備、片付け等は入居者も交えて行い、食事も職員と一緒に楽しく摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入居者一人ひとりの希望に応じた入浴支援が行われている。また、浴室が２カ所あることで余裕ある入浴となっていた。但し、中には入浴を好まない入居者もおり、その方に対する支援方法に苦慮されている面も見られた。	○	入浴を好まない方に対する入浴支援のあり方（方法・工夫）について、引き続き検討を進めてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	入居者一人ひとりの生活歴等の把握はしており、書道や掃除、野菜作り、園芸、テレビ鑑賞等、各々の気持ちや能力を活かした取り組みが行われていた。今後は新たな活動意欲を高めようと、カラオケや手工芸などのクラブ活動的取り組みも検討中である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	基本的には入居者一人ひとりの希望やその日の気持ちに添いながら、散歩や買い物、外食、小旅行的行事等、外出する機会を積極的に設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット間は自由に出入りできる状況にあった。しかし、屋外との出入りとなる１階の玄関は、職員が常時見守りをすることで出入りは自由となっていたが、危険防止の観点から日中でも施錠している状態であった。	○	日中、玄関を施錠していることについて、ホーム側の見解は理解できるものであったが、改めて鍵をかけない工夫をホーム全体で検討してみてほしい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と職員一同に、あらゆる災害を想定した訓練を年２回は消防署と連携した訓練、毎月１回はホーム内で行っている。また、地域に対しては広報等行っているが、協力体制としてはまだ不十分な状況にある。備品等については、非常食１０日分を確保している。	○	引き続き、地域との協力体制作りに努めてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮された（栄養士による）献立となっており、入居者一人ひとりの好みや習慣、摂食機能の状態に応じた支援が行われていた。また、食事や水分の摂取量もしっかりと確認が行われていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共用空間は、照明の明るさや話し声、テレビの音量等、特に気になるようなことはなく、また調理の音やその匂いも感じられ、快適な環境となっていた。さらにカレンダーや壁の装飾などは、季節に応じたものを入居者と職員が一緒に作成していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンと洗面台はホーム側で設置したものであるが、その他のものについては、できるだけ入居者本人の馴染みのものや大切なものを持ってきていただくようにしており、各居室とも安心して過ごすことのできる環境となっていた。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙１）を添付すること。

3　評価結果に対する事業所の意見

事業所名　愛の家グループホーム郡山日和田

記入担当者名　　沖山　一孝

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。